

鳥類

平成12年秋季及び越冬期に、吉野川の下流において、鳥類調査を実施しました。調査結果を基に、吉野川下流における植物と鳥類との関係を考えています。

以下の表で、鳥類の確認個体数の割合を、植物群落別に整理しています。鳥の種類によって、利用している環境が異なることが分かります。ただし、植物の群落上を飛んでいる鳥は、植物と直接関係していないため、確認個体数には計上していません。

植物区分別鳥類の利用状況（百分率）（秋季調査）

種	0： 自然 裸地	2： 水際の 草地	3： 河畔林	5： 砂丘植 生	6： 在来雑 草（低）	7： 在来雑 草（高）	8： 外来種 草地	9： 樹木 （低木）	10： 樹木 （高木）	12： 畑・果 樹園群	合計個 体数
カワウ	100.0%										8
ダイサギ	50.0%	25.0%			25.0%						4
コサギ	90.9%	9.1%									33
アオサギ	88.9%	2.2%	6.7%					2.2%			45
マガモ	100.0%										5
カルガモ	100.0%										196
ヒドリガモ	100.0%										26
トビ	75.0%			25.0%							8
ノスリ			100.0%								1
キジ					100.0%						3
シロチドリ	100.0%										22
ダイゼン	100.0%										5
トウネン	100.0%										4
ハマシギ	100.0%										18
イソシギ										100.0%	1
オオソリハシシギ	100.0%										6
ダイシャクシギ	100.0%										2
カモメ	100.0%										1
キジバト			32.0%					8.0%	24.0%	36.0%	25
ヒバリ	19.0%		14.3%	4.8%			14.3%			47.6%	21
ハクセキレイ										100.0%	30
セグロセキレイ	50.0%		16.7%				16.7%			16.7%	6
ヒヨドリ			54.2%			12.5%		2.1%	31.3%		48
モズ		1.3%	42.7%		5.3%	14.7%	1.3%	4.0%	26.7%	4.0%	75
ジョウビタキ			100.0%								1
ノビタキ							75.0%			25.0%	4
ウグイス		10.0%	22.5%		22.5%	12.5%	2.5%	22.5%	7.5%		40
セッカ						100.0%					1
エゾビタキ			100.0%								1
メジロ								100.0%			1
ホオジロ	0.6%	8.4%	5.1%		11.2%	20.2%	38.2%	5.1%	0.6%	10.7%	178
カシラダカ					100.0%						1
アトリ			9.1%							90.9%	44
カワラヒワ						33.3%		66.7%			3
スズメ			1.4%		2.8%		9.9%	4.2%		81.7%	71
ハシボソガラス	34.7%	14.0%	3.3%	5.2%				1.8%	1.1%	39.9%	271
ハシブトガラス			26.3%	5.3%					15.8%	52.6%	19
合計個体数	473	63	113	35	52	18	40	60	84	290	1,228

注) 百分率は、陸域環境で確認された個体数のうちの割合

緑色：確認個体数のうち30%以上が利用

黄色：確認個体数のうち10～30%が利用

植物区分別鳥類の利用状況（百分率）（越冬調査）

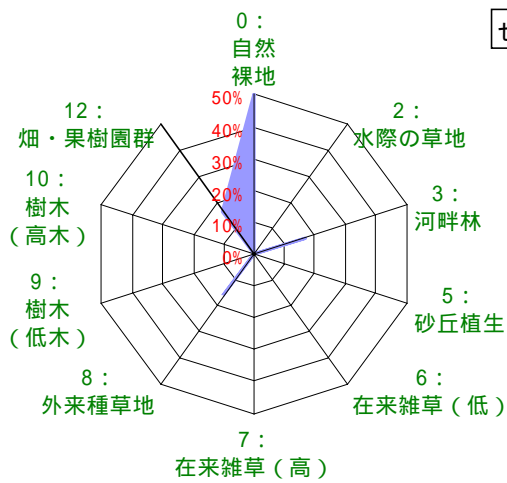
種	0：自然裸地	2：水際の草地	3：河畔林	5：砂丘植生	6：在来雑草（低）	7：在来雑草（高）	8：外来種草地	9：樹木（低木）	10：樹木（高木）	12：畑・果樹園群	個体数合計
カワウ							100.0%				1
コサギ								100.0%			1
アオサギ	100.0%										40
マガン	100.0%										2
オシドリ	100.0%										1
マガモ	98.2%	1.8%									169
カルガモ	59.1%	8.0%							33.0%		176
コガモ	100.0%										28
ヒドリガモ	92.4%	3.8%								3.8%	105
トビ	50.0%						6.3%	43.8%			16
オオタカ							100.0%				1
チュウヒ			100.0%								1
チョウゲンボウ		100.0%									1
シロチドリ	95.0%									5.0%	20
ダイゼン	100.0%										3
ハマシギ	100.0%										462
イソシギ										100.0%	1
ユリカモメ	100.0%										130
セグロカモメ	100.0%										23
カモメ	100.0%										5
ズグロカモメ	100.0%										4
キジバト			32.4%	21.6%			35.1%		5.4%	5.4%	37
カワセミ			100.0%								2
ヒバリ	6.0%				12.0%				2.0%	80.0%	50
キセキレイ	100.0%										1
ハクセキレイ										100.0%	9
セグロセキレイ	50.0%									50.0%	4
ビンズイ		50.0%								50.0%	2
タヒバリ										100.0%	4
ヒヨドリ			57.7%	4.2%		2.8%	33.8%		1.4%		71
モズ			16.7%	44.4%	5.6%	5.6%	11.1%			16.7%	18
ジョウビタキ			33.3%	16.7%	25.0%		25.0%				12
トラツグミ					100.0%						1
シロハラ			25.0%		25.0%	25.0%			25.0%		4
ツグミ	1.1%	8.5%	37.3%	6.2%	7.3%	9.6%	10.2%	1.1%	4.5%	14.1%	177
ウグイス		11.9%	19.0%	26.2%	4.8%	33.3%	2.4%		2.4%		42
メジロ			31.6%			42.1%	26.3%				19
ホオジロ		8.0%	12.4%	12.9%	22.2%	5.8%	2.2%		1.3%	35.1%	225
カシラダカ						100.0%					1
アオジ		31.3%	15.6%	6.3%	18.8%	21.9%	6.3%				32
カワラヒワ			22.1%			9.3%	61.6%		2.3%	4.7%	86
スズメ		19.4%	13.6%	1.0%	1.0%		14.6%			50.5%	103
ムクドリ			40.0%							60.0%	15
ハシボソガラス	1.9%		28.2%		1.9%	1.9%	5.8%	3.9%	39.8%	16.5%	103
ドバト									100.0%		1
個体数合計	1,102	91	245	75	86	74	150	13	62	311	2,209

注) 百分率は、陸域環境で確認された個体数のうちの割合

緑色：確認個体数のうち30%以上が利用
黄色：確認個体数のうち10～30%が利用

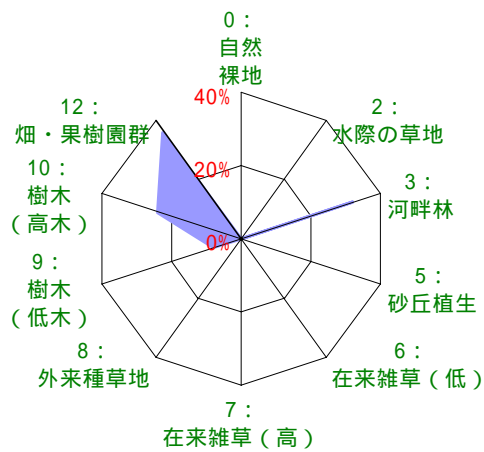
幾つかの鳥について、秋季調査の結果から考察しています。次頁に示すように、セグロセキレイは自然裸地を好んで利用します。しかし、キジバトやヒヨドリは、河畔林や樹木（高木）に多くみられます。キジバトは畑・果樹園も良く利用しています。モズやカワラヒワ、ウグイスも樹木がある環境にみられます。しかし、高い樹木よりは、低い樹木を好みます。樹木だけではなく、在来の雑草でもこれらの鳥はよくみられます。

このように、鳥の種類によって、利用している植物の状況は異なります。



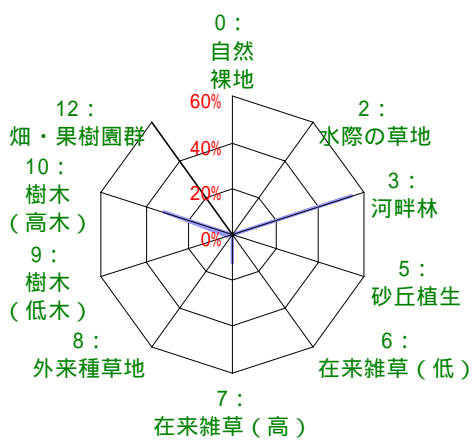
セグロセキレイ

セグロセキレイの多くは、自然裸地及び畑・果樹園地など、開けた環境で確認されています。



キジバト

キジバトの多くは、畑・果樹園で確認されましたが、樹木でも普通にみることができます。

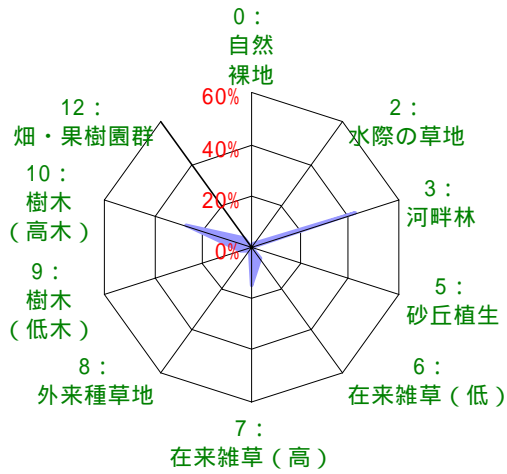


ヒヨドリ

ヒヨドリの多くは、河畔林や樹木(高木)で確認されています。樹木がある環境を好みます。

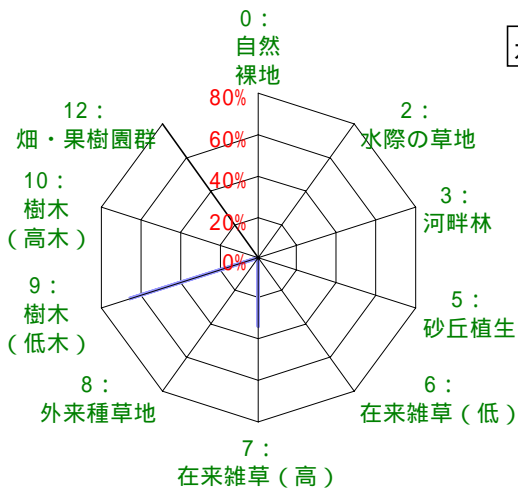
モズもヒヨドリと同様に、樹木がある環境を好みます。

モズ



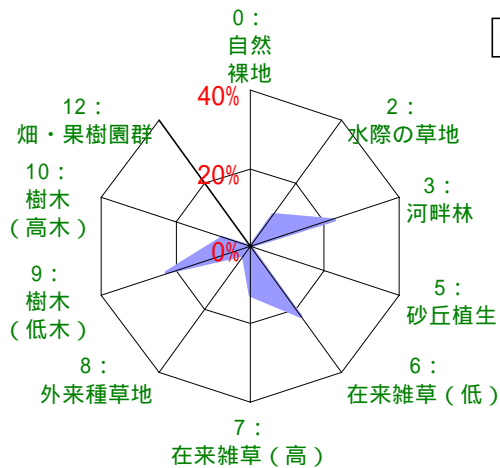
カワラヒワは、樹木（低木）に多くみられますが、在来雑草（高）でも普通にみられます。樹木だけを好んでいるわけではないようです。

カワラヒワ



ウグイスも同様に、樹木がある環境にもみられますが、草地にも出現します。樹木というよりは、見を隠せる環境を好んでいるといえるのではないのでしょうか。

ウグイス



鳥類と植物の関係をさらに分かり易くするため、主に陸に住んでいる鳥類の出現環境を以下のように下記の表にまとめています。

植生別利用種 (陸鳥)

環境区分	植生群落区分	調査時期	全止まり個体の30%以上がこの群落を利用した鳥類	全止まり個体の10～30%がこの群落を利用した鳥類
自然裸地	自然裸地	秋	ヒ、セグロセキレイ、ハシボソガラス	ヒバリ
		越冬	セグロセキレイ	
水際の草地	ヨシ群落	秋		ヒバリ、セグロセキレイ
		越冬		
	ツルヨシ群落	秋		
		越冬	ヒノスズイ	アオジ
	セイタカヨシ群落	秋		ハシボソガラス
		越冬		
	ヤナギタデ群落	秋		
		越冬		スズメ
河畔林	アカメヤナギ群落	秋	キジバト、ヒヨドリ、エス	ウグイス、ハシボソガラス
		越冬	キジバト、ヒヨドリ、ジョウビタビ、ツグミ、メジロ、ムクドリ	エス、シロハラ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カラビロ、スズメ、ハシボソガラス
砂丘植生	コウボウシバ群落	秋		ヒ
		越冬		
在来雑草 (背が低い)	ヤブガサシ - カムクラ落	秋	キジ	ウグイス
		越冬		シロハラ
	チガヤ群落	秋		
		越冬	ハシボソガラス	
在来雑草 (背が高い)	オギ群落	秋	カラビロ	ホオジロ
		越冬		キジバト、エス、ホオジロ
	メダケ群落	秋		
		越冬		エス、ウグイス
外来種草地	セイタカアワダチソウ群落	秋		ホオジロ
		越冬		シロハラ、アオジ、カラビロ
	セイバンソウ群落	秋	ルビ	
		越冬		ホオジロ
	シダリスズメ群落	秋		ヒバリ
		越冬		ジョウビタビ
	アレチウリ群落	秋		セグロセキレイ
		越冬		

植生別利用種 (陸鳥)

環境区分	植生群落区分	調査時期	全止まり個体の30%以上がこの群落を利用した鳥類	全止まり個体の10~30%がこの群落を利用した鳥類
樹木 (低木林)	アキニレ群落	秋 ----- 越冬	カワリ	
	ノイバラ群落	秋 ----- 越冬	ウグイス、メジロ	ウグイス ----- シロハラ、アオジ、カワリ
樹木 (高木林)	エヒキ - ムクナ群落	秋 ----- 越冬	カワリ	ヒヨドリ ----- キジバト、ヒヨドリ、モズ
	センダングラ群落	秋 ----- 越冬		モズ ----- キジバト、ヒヨドリ、 メジロ
	ヤマグワ群落	秋 ----- 越冬		スズメ
竹林	ハチクマ群落	秋 ----- 越冬		
人工改変地	畑	秋	ハクセキレイ、アトリ、スズメ、ハシホソガラ ス、ハシブトガラス	ヒバリ、セグロセキレイ ----- ルビキ
		越冬	ヒバリ、ハクセキレイ、 セグロセキレイ、スズメ	死ヒバリ、モズ、ホシジロ
	人工草地・採草地	秋		ヒバリ
		越冬	ヒバリ、ムクドリ	ハクセキレイ、スズメ
人為裸地・造成地	秋			
	越冬	ヒバリ	ハクセキレイ	
人工構造物	秋			
	越冬	ハクセキレイ、ヒンズイ、 死ヒバリ	ムクドリ	

季節によっても、鳥が出現する環境は異なります。鳥の渡りによる出現種の季節的変化もありますが、木の実や果実、木や草に付く昆虫の状況等、餌の環境によっても出現する種が変化します。

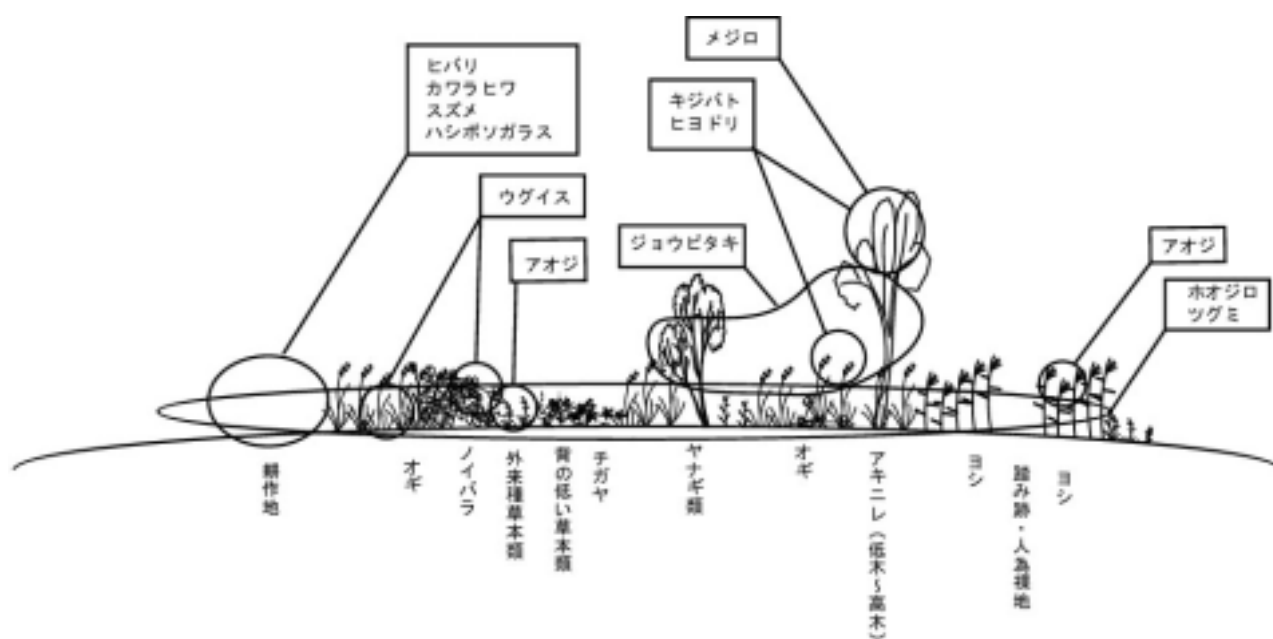
今までは植物の環境を平面的に見てきました。同じ木でも高さに応じて出現する鳥の種類は異なります。今度は高さ方向の違いも考えてみます。

現地で確認した鳥類の止まり位置に関する情報を加味して、樹林が乏しい環境と樹林を含む環境とに分けて、鳥類の出現状況を整理した結果、以下の表が得られます。

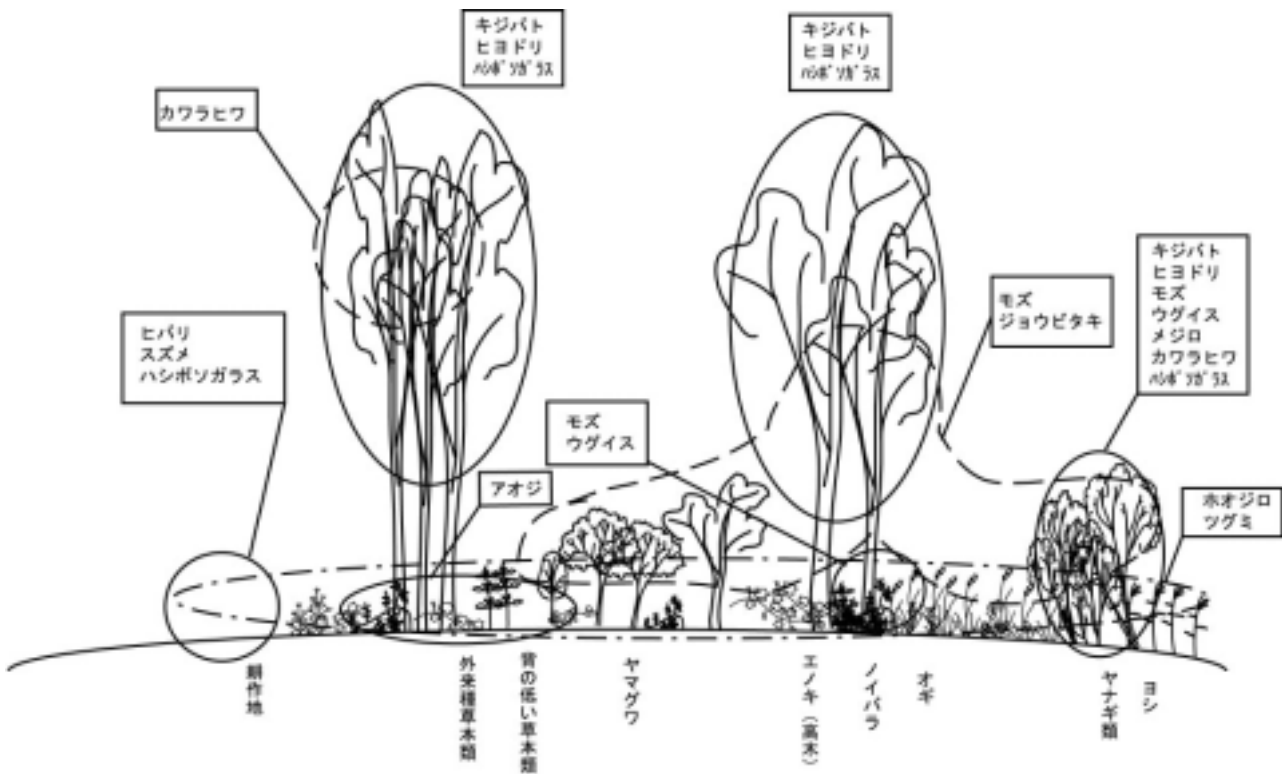
樹林環境別鳥類の確認環境

種名	確認の概要			食性
	樹林の乏しい環境	樹林を含む環境	確認された採餌行動	
キジハト	背の高い植生の上部と地上付近を利用。	樹林等の背の高い植生の中部～上部を利用。低木林では各部を利用。	地上付近で確認。	地上や低木で種子、果実、昆虫類
ヒバリ	地上部を利用。	地上部を利用。	地上耕作地等で確認。	地上で種子、昆虫類
ヒヨドリ	背の高い植生の上部を利用。	樹林等の背の高い植生の中部～上部を利用。	ヤナキ樹上のツル性植物で採餌。	空中、樹上で種子、昆虫類
モス	背の高い植生～低木林の地上付近を利用。	低木～高木の地上から5m位までを利用。	地上付近で確認。	空中、地上、樹上で小動物、鳥類、昆虫類
ジョウビタキ	草地から樹林の4m位までを利用。	草地から樹林の4m位までを利用。	樹上で確認。	地上で昆虫類、果実
ツグミ	各植生の6m位までを利用。	各植生の6m位までを利用。	地上耕作地等で確認。	地上で昆虫類、果実
ウグイス	背の高い草本や低木の低部を利用。	背の高い草本やヤナキ林、低木の低部を利用。	樹上で確認。	枝上で昆虫類
メシロ	高木の上部を利用	ヤナキ林の上部、低木林を利用	樹上で確認。	樹上で実、昆虫類、花
ホシロ	各植生の4m位までを利用。	各植生の4m位までを利用。	地上付近で確認。	地上で植物種子
アオシ	草地などの2m位までを利用。	各植生の4m位までを利用。	地上付近で確認。	地上で植物種子、果実
カラビラ	地上部で確認。	樹木の中～上部で確認。	樹上で確認。	植物種子
スズメ	地上部で確認。	地上部、ヤナキ林、低木の上部で確認。	地上部で確認。	植物種子、昆虫類
ハシホリガラス	地上部、低木上部等で確認。	地上部、樹木の中～上部で確認。	地上部で確認。	地上で昆虫類、小動物、

以上の結果を基に、草地的な環境と樹木を含む環境とに区分して、吉野川における鳥類の出現状況を模式的整理してみました。



草地的な環境での鳥類分布状況模式図



樹林を含む環境での鳥類分布模式図